

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 既存教室の視聴覚機器、情報処理機器を充実させる。	→貸出用CD・DVDプレイヤー、カセットデッキなどの所有台数、およびプロジェクター、PCの設置台数。	C
2. TA (ティーチング・アシスタント) によるチューター制度を確立する。	→規程の明文化。	D
3. 学部各種教員の業務負担軽減により、教員の研究時間を確保する。	→学部各種委員会数、委員数、1人あたりの委員割合。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	<p>教育研究を支援する施設・設備の整備については、教育上のニーズ、教育方針、教育方法に基づき、計画的に全学的な視点でそのあり方を検討していく必要がある。一方で本学部本館のように古い教室では、設備的には限界があり、視聴覚機器に関してはほぼ補充にとどまっている。しかしPCについては、現在学部独自で維持・運用しているが、2010年夏の情報メディア教育センター所管の教育研究用PCリプレース時に、PC環境をセンターに合わせることで、学生の便益のみならず業務量、管理費用面でも有効であるため検討を重ね、リプレース時期、リース契約等センターに合わせ発注することを決定した。</p> <p>また、人的な教育環境の支援については、初年次教育の観点から、授業支援を行うティーチング・アシスタント (TA) 制度の設置が必要である。しかしながら、まだ調査、検討の段階で、規程の明文化は進んでいないのが現状である。</p> <p>大学教員の果たす使命として、教育による人材育成とともに、学問的研究が大きな比重を占めている。社会的評価として重視されるのは、もちろん発表論文数や学会発表件数であり、そのための研究専念時間を確保する必要性は高い。学部での各種委員の業務負担が増えてきており、教員の研究時間を少しでも確保すべく、一人当たりの委員割合を減らし、2010年度の委員割合もさらに減ることとなった。</p>
☆ その他	

《特定6項目データ》

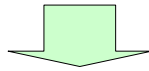
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員一人あたりの授業時間数		時間	→	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照
指標2	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	18	24	28	25	21	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、 2009、2010年度)
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	4	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.4	
	その他	



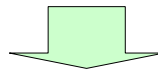
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目9.0.4	教室環境、PC環境を全学的に整備する必要がある。特にPCに関しては、設置台数があまりにも少ないと感じる。1学部での対応は予算面からも難しい。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○TAによるチューター制度については、検討を急ぐことが求められます。教員の研究時間確保のため、委員会業務を更に軽減することが望まれます。

【学内委員】

○現在、教育課程、カリキュラムの改定作業中であるとのことですが、記述だけでは現状がわかりませんし、課題や問題点もわかりません。自己点検・評価は、社会にわかり易く説明し本学の情報を発信する役目もあります。そのためにも現状説明はもう少しご説明をお願いします。

○現状説明において、特定6項目データを利用して説明されることを望みます。

○現状説明において課題や問題点が指摘されています。改善すべき事項に記述することを望みます。

○「一人当たりの委員割合」という指標の意味が不明確です。より良い用語を検討してください。

○「改善すべき事項」について、改善方策についても記入してください。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目9.0.4「改善すべき事項」

★【次年度に向けた方策(2)】改善方策

少人数教育が可能な教室が少ないため、本館2階の3教室をゼミ用、語学用を兼ねる教室に仕様変更し、教室環境の改善を図る。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
